# 元気！活き生き 女性研究者・公立大学モデル

NEWS LETTER
No.6 2012.7

文部科学省 科学技術人材育成費
『女性研究者支援モデル育成』事業

公立大学法人 大阪府立大学 OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY
女性研究者支援センター

大阪府立大学では、プロジェクト「元気！ 活き生き女性研究者・公立大学モデル」を実施しています。これは、平成22年度「科学技術振興調整費（女性研究者支援モデル育成）」に、公立大学としては全国で初めて採択された取り組みです（平成23年度～「科学技術人材育成費」）。

平成24年度　H24.5.12（土）　中百舌鳥キャンパス サイエンスホール ＜63名参加＞

## 第1回ロールモデル・セミナー ＆ IRIS（アイリス）第2期生 任命式 を開催

### 第1回ロールモデル・セミナー

講師　高橋 さやか
（東北大学サイエンス・エンジェル/大学院生命科学研究科）

東北大学SA 高橋さん

大阪府立大学に、科学の楽しさを伝える「理系女子大学院生チームIRIS」が誕生して、2年目を迎えました。これを記念して、東北大学サイエンス・エンジェル（SA）を迎え、お互いの活動内容や、これからの活動について話しました。

まず、SAの高橋さやかさんから、SAの活動内容について報告がありました。SAは、これまで多数の体験型科学イベントや小中高校への出張セミナーを企画・実施し、2011年度には、「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」特別賞を受賞されました。このようなSAの活動を通してSAのメンバーは、女性の働き方をこれまで以上に考えるようになり、自分の研究をわかりやすく伝える言葉の使い方を学び、かけがえのない仲間ができたことなどを報告されました。次に、本学IRISの岩佐亜有美さん（本学大学院工学研究科）、上野未貴さん（本学大学院工学研究科）が、IRISの2011年度の活動内容について報告しました。

その後、高橋さんとIRISの黒田桂菜さん（本学大学院工学研究科）、武綾香さん（本学大学院理学系研究科）による、パネルディスカッションを行いました。研究生活とSAやIRISの活動のバランスのとり方や、活動の企画や研究発表、イベントの実施で気をつけることなどについて話し合いました。「修士論文を書く時などは、他のSAのメンバーが活動を支えてくれた」「バランスをとるというより、むしろ活動が研究の息抜きになっている」「サイエンスが好きという想いが原動力になって活動している」など、活発に意見がかわされました。

パネルディスカッション

### IRIS第2期生 任命式

3月22日（木）～4/25（水）にIRIS第2期生を募集し、選考の結果、工学・生命環境科学・理学系研究科より35名のメンバーに決まりました。任命式では、IRISを代表して黒田さんに奥野理事長より任命状が授与されました。

IRIS任命状授与

セミナー終了後に開催

◆IRISへのイベント実施申込み説明会　＜8団体13名参加＞

IRISによる実験教室などの開催を希望する行政機関、学校、子ども会などの担当者に参加していただき、IRISへのイベント実施申込みにあたっての条件や確認事項等について説明しました。説明会終了後も個別に相談を受けるなど、IRISへの注目度の高さを感じました。

◆SAとIRISとの交流会　＜37名参加＞

セミナー参加者の高校生なども参加して、東北大学SAとIRISの交流会を実施しました。

IRISの活動については中面をご覧ください。

## 「大阪女子大学」から考えること

公立大学法人 大阪府立大学 理事　村田 忠男

昨年、九州大学において、理学部数学科の2012年度後期入試で女子枠を初めて導入する予定だったのが、憲法違反の可能性もあるということで、断念したというニュースが話題になりました。この話を耳にして、もう10年ほど前になりますが、私が大学設置者側の立場で関わっていた「大阪女子大学」の議論を思い出しました。

当時は、大阪府において13名の外部有識者からなる「府大学のあり方検討会議」を設け、その場では、歴史・伝統のある大阪女子大学のあり方も大きなテーマの一つでした。公立女子大学は、戦後新制大学の発足と同時に大阪府、高知県、福岡県、熊本県で設立され、その後、群馬県、静岡県、広島県、山口県で設立されたのですが、共学化により、当時は全国で5大学（現在は2大学）に減少しており、平成14年に出された提言の方向性では、府立の三大学の統合が自律的経営とともに、求められたところです。

この検討会議では、明確に憲法違反という議論まではありませんでしたが、府の大学が政策的にそこまでする必要性が薄れているということ、また、府立の大学の存在意義・あり方として、リベラル・アーツ志向の大学の存在意義を訴えることが難しいということ（リベラル・アーツの重要性自体を否定した議論では決してありません）が、論点だったと思います。

ただ、私達が忘れてはならないのは、大阪女子大学の伝統・蓄積は大阪府立大学に引き継がれているのであって、それは何かを常に問い続けなければならないということだと思います。このことは、教育・研究面で常々知恵・工夫の要するところだと思いますが、現在、女性研究者支援モデル育成事業において理系女子の「ロールモデル」を育成することを目標に取り組んでいることには、頷けるものがあります。あまり、大阪女子大学を引き摺るわけでもなく、かと言って、忘却するのでもなく、要は、大学としてミッションを持ち続けるということが非常に大切ではないか、と思っております。

## ロールモデルリレーエッセイ

### 「偶然」との出会いを楽しんでください

中澤 昌美● 大阪府立大学 生命環境科学研究科
応用生命科学専攻　助教

バイオテクノロジーを学びたくて本学農学部（当時）に入学した私は、その後ずっと府大で過ごしてきました。3回生の授業で「偶然」出会ったミドリムシ（ユーグレナ）に興味を持ち、研究室でも、ともに歩んできました。ドクターに進んだ理由は単純で「自分の知りたいことを、自分の手で明らかにできるなんて、他ではできない！」と思ったこと。この気持ちは、教員になって10年以上たった今も変わっていません。

現在は、研究室の先輩方が積み重ねてこられた、ユーグレナを未来のバイオ燃料生産生物ととらえた研究を進めています。そのなかで、平成23年10月に「微細藻類ユーグレナの新規形質転換法の開発と応用」というテーマで、JSTの戦略的創造研究推進事業「さきがけ」に採択していただき、研究補助者の方や学生のみんなと研究を進めています。

「さきがけ」は、申請時から女性研究者支援を大きく取り上げている、ありがたい、ちょっと変わった制度です。「研究へのひたむきな気持ちがあれば、女性の“ブランク”を助けてくれる人や制度がある」と、ライフイベントに対して前向きな気持ちを持つきっかけにもなりました。

今の私は、良き理解者である主人や周囲の皆様のおかげで、結婚後も変わらず研究に取り組んでいます。今後、出産・育児等が現実となったとき、どうなるかは私にもわかりません。もちろん不安はたくさんありますが、周囲の方々への感謝を忘れずに、前向きな気持ちと、何とかなるさの楽天主義をうまく使いこなして進んでいければと思います。

誰の前にも「偶然」はたくさん転がっているものです。それに気付いて行動できるかどうかは自分次第。その能力を磨けば、より多くのきっかけやタイミングに出会えるのではないかと思います。今の私がこうして研究をしているのも、少しの偶然（と、かなりの思い込み）のおかげです。皆さんも、ぜひ色々な偶然との出会いを楽しんでください。

## 女性研究者支援センターの相談窓口

大阪府立大学の女性教職員および女子学生を対象に、2つの相談窓口を開設しています。

**支援センター相談**　研究を続けていく上で困ったこと、悩んでいることについて、支援センターのコーディネーターが、あなたに必要な支援や情報を一緒にお探しします。

**女性の健康相談**　職場・研究環境と健康に関わる問題について、助産師がサポートします。

### 相談日スケジュール

スケジュールに変更がある場合があります。女性研究者支援センター・ウェブサイトをご確認ください。

- ●第1月曜日　9:30～13:30　羽曳野キャンパス
- ●第2月曜日　9:30～13:30　りんくうキャンパス
- ●第1・2水曜日　9:30～13:30　中百舌鳥キャンパス

### 女性の健康相談ミニ・セミナー ＜各相談日の12:15～12:45＞

自分自身の健康について考えてみませんか？
毎月テーマを変えて、相談員（助産師）によるミニ・セミナーを開催しています。

**●8月のテーマ　「からだの症状からみる女性の病気について」**
**～こんな症状ありませんか？たいしたことないけれどちょっと心配…。めまい、疲れやすい等のからだの不調からどんな病気が考えられるか、生活上の注意などについて一緒に考えましょう～**

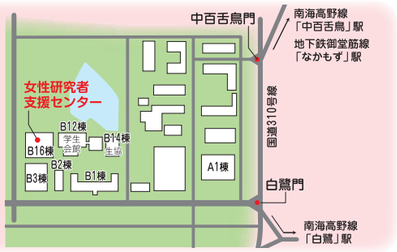
「支援センター相談」と、「女性の健康相談」の個別相談には、予約が必要です。
お問い合わせ・ご予約は下記へ。※件名に「相談」と入れてください
●E-mail　w-support@ao.osakafu-u.ac.jp

## 『ロールモデル集 第2集』を発行しました

本学で活躍する女性研究者や、ロールモデル・セミナーの講師に迎えた理系女性研究者をご紹介しています。また、「世界に翔け！ 理系女子大学院生」表彰で最優秀者となった方々もご紹介しています。

デジタル・パンフレットを女性研究者支援センター・ウェブサイトに掲載しています。ぜひご覧ください。

公立大学法人 大阪府立大学
女性研究者支援センター
〒599-8531　大阪府堺市中区学園町1-1
（中百舌鳥キャンパスB16棟）
TEL・FAX　(072) 254-9856（内線5057）
E-mail　w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
URL　http://www.opu-genki.jp



「元気! 活き生き女性研究者・公立大学モデル」事業の概要と取り組みを紹介します。

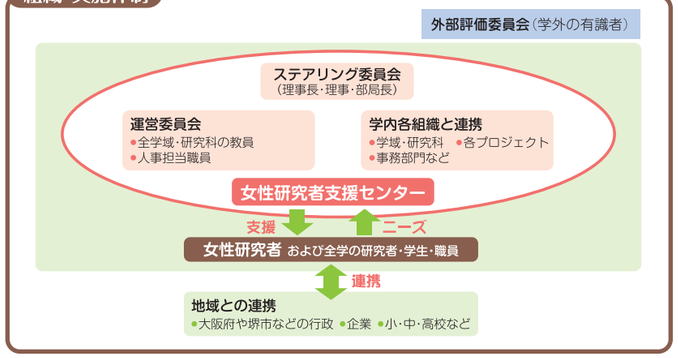
## プログラムの目的・・・▶全学的システム改革

**理系女性研究者の増加**
- ●事業終了までの3年間で理系女性研究者数を平成21年度の30%増やす。
- ●理系博士課程を修了する院生の女性比率を25%まで引き上げる。

**環境整備**
- ●相談窓口・メンター制度・保育室を開設する。
- ●出産・育児等の問題に直面した理系女性研究者のために研究支援員を配置する。

**地域貢献**
- ●ロールモデル・バンクの構築と活用により地域に貢献する。

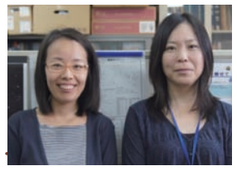
## 組織・実施体制




# 1 支援のための環境整備

推進体制を整えるとともに、女性研究者への直接支援などを行っています。

## 研究支援員を配置しました



当センターでは、妊娠・出産・育児中の理系女性研究者で、研究時間の確保が困難な方に、研究支援員を派遣し、研究や実験の補助を行っています。平成24年度は7月現在、6名の研究支援員を配置しています。

### 研究者と支援員インタビュー

**工学研究科助教　金田 さやか先生**(写真左)

主な研究内容は、探査機「はやぶさ」に搭載された探査ローバの位置推定です。簡単に言うと小惑星上で動くカーナビを開発しています。

研究支援員の池淵さんには事務作業をお願いしています。一番助かっているのは、電車内で書いた数式を、プレゼン資料や講義資料のために電子化してもらえることです。今後は、海外出張の手続きなど、池淵さんの英語力にも期待しています。

産休15週で復帰し、子どもは8ヵ月になりました。出張などでお迎えに行けないときは会社員の夫に頼んでいます。病気のときは夫と半々で休みを取っています。私も夫も職場の理解があって育児できています。今後は、研究支援が男性でも平等に受けられるように制度改革がなされ、育児・仕事の男女参画への意識がより高まることを期待しています。

**研究支援員　池淵 理津子さん**(写真右)

私自身も高校生と中学生の2人の子どもがいます。研究支援員の仕事を始めたのは、大学という教育機関に興味があったことと、結婚後退職しましたが、仕事を続けていたらよかったと思うこともあり、同じ状況の方のお手伝いをしたいと思ったからです。理系出身ではないので、数式の扱いなど難しいところもありますが、先生に教えていただきながら、学ぶところもあり、楽しくやりがいがあります。

## 女性研究者支援SNSでネットワークが広がっています

本学の女性教職員・女子大学院生が、時間や場所に関係なくSNS内でコミュニティをつくり、情報交換を行って交流しています(趣旨に賛同する男性も参加可能です)。

### 他機関と交流・連携しました

H24.2.18(土) 東北大学「シンポジウム2011」に参加
H24.2.20(月) 岩手大学「男女共同参画推進シンポジウム」に参加
H24.2.24(金) 富田林市「男女共同参画公開セミナー」にて事業紹介
H24.3.3(土) 東北大学「サイエンス・エンジェル活動報告会」に参加し、IRIS活動報告を実施
H24.3.6(火) 大阪大学「男女共同参画セミナー」にて事業説明

### 「教職員・院生支援のためのアンケート調査」を実施しました

結果は女性研究者支援センター・ウェブサイトに掲載しています。

## つばさ保育園便り

### 大学の四季を感じながら過ごしています

新入園のお友だちも保育園での生活に慣れてきて、笑顔もよく見られるようになりました。

# 2 全学的意識改革

女性研究者が研究を続けていくことへの理解を進めます。

教職員がワーク・ライフ・バランスをとりやすい環境づくりの一環として、キャンペーンを行っています。

## 子育て応援・ピンバッジ・シールキャンペーン

教職員がバッジやシールを身に着けることで、子育て中の人を応援できる環境づくりを目指しています。

## 「会議は17時まで」キャンペーン

総務人事課と共催で、会議時間の見直しを呼びかけています。

## 今後の活動予定

- ●第3回ロールモデル・セミナー開催　H24.7.25(水)
- ●大阪府立大学オープンキャンパスにて「めざせ! 理系女子」コーナー開催　H24.8.4(土)・5(日)
- ●女性研究者支援事業総括シンポジウム開催　H24.11.30(金)　ほか

今後の予定については、決まり次第、女性研究者支援センターのウェブサイトなどでお知らせしていきます。

府大　女性研究者　検索　クリック!

# 3 キャリアパスの構築と裾野拡大

女性が研究者として活躍するキャリアパスを構築すると共に、理系を志す女性の数を増やします。

## 大学院生チーム IRIS(アイリス)(I'm a Researcher In Science)が活躍しています

小・中・高校生に科学の楽しさを伝える理系女子大学院生チームIRISが、地域からの依頼を受け、どんどん科学の楽しさを広めています。

### 子どもサイエンス・キャンパスを開催

**●男女共同参画社会づくり講座「科学のこころを育てよう」にて**
H24.3.17(土)　和泉市男女共同参画センター　小学生と保護者18組38名参加
主催:和泉市男女共同参画センター/協力:大阪府立大学女性研究者支援センター
▶おもしろ実験やってみよう～DNAを取り出そう!～
ブロッコリーとバナナのDNAを取り出しました。DNAが出てきたときには、子どもたちはとても喜んでいました。

**●ふらっとねやがわ男女共同参画学習講座「春休み! 親子で楽しく科学実験教室」にて**
H24.3.27(火)　寝屋川市立男女共同参画推進センター　小学生と保護者16組36名参加
主催:寝屋川市立男女共同参画推進センター/協力:大阪府立大学女性研究者支援センター
▶霧箱を作って、放射線を見てみよう!
容器の中で、放射線を見る環境を作りました。20分ぐらいで、マントルから出る白い糸のような放射線を見ることができました。

**●大阪府立大学「花(さくら)まつり」にて**
H24.4.7(土) 中百舌鳥キャンパス
小学生と保護者20組参加
▶入浴剤を作ろう!
子どもたちは、材料を乳鉢と乳棒で一生懸命すりつぶしていました。色とりどりの入浴剤を作り、お風呂に入るのを楽しみにしていました。

**●「Women Pioneers-女性先駆者たち DVD鑑賞&読書会」にIRISがゲストスピーカーとして発表**
H24.3.2(金)　大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)　7名参加
主催:大阪府/共催:ドーン運営共同体/協力:大阪府立大学女性研究者支援センター

IRIS活動報告会

**●IRIS活動報告会を開催**
H24.3.5(月)　中百舌鳥キャンパス　15名参加
平成23年度の活動内容について報告を行い、参加した先生方から今後の活動に向けてのアドバイスをいただきました。

**●IRIS café を実施**
平成23年度は月2回程度、定期的にIRISメンバーで交流の場を持ち、情報交換を行いました。

『IRIS活動報告集』を発行しました

デジタルパンフレットを女性研究者支援センター・ウェブサイトに掲載しています。ぜひご覧ください。

## ロールモデル・セミナーを開催

**●男女共同参画社会づくり講座「科学のこころを育てよう」にて「子どものなぜは無限大 ～お母さん研究者に子育てのお話を聞いてみよう～」**
H24.3.10(土)　和泉市男女共同参画センター研修室　19名参加
主催:和泉市男女共同参画センター
協力:大阪府立大学女性研究者支援センター
講師:中谷 敬子(大阪府立大学工業高等専門学校 准教授)
講師の中谷准教授は、研究者として、母として、4人の男の子を育てた経験をもとに、「子どもがいるから研究が進まない、と思っていた時期もありますが、科学への好奇心を思い出させてくれたのも子どもでした。子どもが何をやりたいかを決めるのは子ども自身で、親にできるのは、いろんなものを見せたり、経験させることです。」と話されました。

**●平成24年度 第2回ロールモデル・セミナー「街を油田に! 眠れる資源を発掘中!!」**
H24.5.18(金)　中百舌鳥キャンパス　322名参加
講師:染谷 ゆみ(株式会社ユーズ 代表取締役社長)
現代システム科学域「環境とサステイナビリティ」の講義を兼ねて開催
環境問題の解決を軸にした社会変革を目指して株式会社ユーズを設立した染谷さんを講師にお迎えし、2007年に天ぷら油を回収してバイオディーゼル燃料VDF(Vegetable Diesel Fuel)®などの資源に変換するリサイクルプロジェクト「TOKYO油田2017」を発足させ、循環型社会の実現を目指していることなどをお話しいただきました。
このセミナーをきっかけに、リサイクル、環境問題へ興味を持った学生も多くみられました。

## 若手研究者スキルアップ・セミナー「Author Workshop～アクセプトされる論文とは～」を開催

H24.3.13(火)　中百舌鳥キャンパス　30名参加
若手女性研究者等への支援事業として、英語論文の執筆セミナーを行いました。定員を上回る申し込みがあり、参加者からは、またぜひこのようなセミナーを行ってほしいと大変好評でした。

# 4 サポート基盤の整備

学内の各部局との連携・協力体制を強化します。大阪府や堺市をはじめとする地域との連携を深め、地域貢献を図っていきます。

**IRISが地域に出向き「子どもサイエンス・キャンパス」などを開催しています**(上記参照)

**大阪府や堺市等と協働して事業を行っています**(上記参照)